

平成 28 年(2016 年)熊本県熊本地方を震源とする地震  
非常災害対策本部会議(第8回)議事録

日時:平成28年4月17日(日)18:33~19:02

場所:官邸4階大会議室

1. 内閣総理大臣 発言

(内閣総理大臣)

- 発生から、丸3日を迎える。現地では、3万人規模の自衛隊、警察、消防、医療部隊などが被災者の皆さんの期待に応え、昼夜を分かたず懸命の活動を進めているが、いまだ連絡の取れない方々がおられる。
- 二次災害に細心の注意を払いながら、引き続き救命・救助活動に、力を尽くしてほしい。
- 10万人を超える方々が、避難所での不安な生活を送っている。インフラの途絶などにより、自宅におられる方々も含めて、不自由な生活を余儀なくされている。
- 強い日差しの下、炊き出しや給水の列に何時間も並び続けなければならないなど、肉体的・精神的に過酷な状況に置かれており、一日も早く改善しなければならない。
- 先ほど『被災者生活支援チーム』が発足。
- 高齢者や乳幼児など配慮が必要となる方々に、十分に目配りしながら、食料や水、紙おむつなど生活必需品を確保。トイレの確保、医療や医薬品の提供のほか、水道、電気など生活インフラの復旧を、早急に進める必要がある。
- さらに、自宅が倒壊した、または、倒壊するおそれのある方々は、避難の長期化が考えられることから、住宅や宿泊施設などを確保し、避難所からの早期の移転が可能となるよう取組を加速すること。
- そして、その先には被災者の皆さんの生活再建、地域の復旧・復興を進めていく必要がある。時々刻々変化する被災地のニーズを的確に把握し、迅速に対応すること。
- 機動的な対応を進めるためには、激甚災害の早期の指定を始め、普通交付税の繰上げ交付、必要となる予備費の投入など、政府として、あらゆる手段を尽くしていくこと。
- とにかく『現場主義』を徹底すること。『求められてから対応する』のでは遅すぎる。受け身であってはならない。
- 能動的に、『現場』の状況を、いち早く把握し、先手、先手の対応を、政府一丸となって、進めていくこと。
- そのために、『被災者生活支援チーム』から、国の職員を『現場』に投入し、最前線で対応に頑張っておられる被災市町村に、速やかに派遣できるよう準備を急ぐこと。
- 被災者の皆さんの不安な気持ちにしっかりと寄り添いながら、被災者の生活を支えるため『できることは全てやる』。その決意を持って、総力を結集し、取り組んでいくこと。

2. 被害状況及び各省庁の対応状況について

(警察庁)

- 被害情報。死者 41 名。捜索活動は、南阿蘇村 2 か所 3 名を対象に実施。益城町は 2 回目のローラー作戦を実施し、要救助者の発見はなし。

- 国道3号線の渋滞は、信号操作により渋滞緩和対策を実施中。

(総務省)

- 閉じ込め・生き埋め事案は新たに1件活動を開始。2件が終了。残り3件。
- 宇土市「本町センターホテル」で油漏れが起こったが措置完了。
- 緊急消防援助隊は、全ての部隊が熊本県内に到着し、活動を開始。南阿蘇村の土砂崩れによる行方不明者の捜索を中心に活動を実施。鳥取県ヘリが、上益城にて孤立した住民1名の救出を実施。
- 全国知事会等で支援組織を設置していただき、対応いただいている。特に知事会では、熊本県からの要請を受け、建物の応急危険判定を行うため、4都県8名の技術系職員を派遣予定。
- 通信関係。通信事業者に対し、特に避難所の通信利用環境の確保に取り組むようお願いをした。
- 携帯電話の停波基地局数 294 局と縮小。
- NHK 南阿蘇局、発電機の修理により復旧。熊本放送蘇陽北局は停波。
- NICT が被災地のレーダ観測を実施。災害箇所の判明が可能。
- 重要になってくるのが被災地でのプライバシー確保。避難所に仕切りが設置されただけで設置前に比べ、精神的に安定したという声が多かった。できるだけ仕切りの設置をお願いしたい。

(防衛省)

- 南阿蘇村の倒壊家屋から4名を救助し、病院に搬送。
- 明日以降、2万6千名態勢としたい。
- 明日以降、米軍機により千歳から熊本に人員、車両の輸送を行う予定。オスプレイでの空輸も調整中。
- 新たな給水支援場所を設置。

(厚生労働省)

- D-MAT は、今朝とほぼ変更なし。
- ドクターヘリは、関西広域連合が2機を熊本に配備。
- 医療機関について、連絡が取れていない箇所と連絡が取れたことにより、ライフラインに問題のある機関が増加。東熊本病院等、ライフラインが途絶または倒壊のおそれのある施設の入院患者については、搬送済み、搬送中、一部18日以降に搬送となっており、全ての患者の対応が決まっている。
- 医療機関での水・食料の確保については、14機関から要望があり、3機関で対応済み。まだ11機関で不足となっている。
- 所定病床数を上回る患者を入院させることとなった場合、入院基本料の減額を行わないこと等を既に連絡済み。
- 熊本県看護協会登録の災害支援ナースが、益城町保健師、県保健師と協力体制で支援活動を開始。
- DPAT。13隊が活動中。全国で11隊が準備中。
- 水道に関しては若干改善。
- 社会福祉施設については、人命にかかわる被害はなし。

(農林水産省)

- 支援物資の供給状況、県が要請した支援物資等の到着状況については、資料参照。明日 36 万食が到着予定。
- 現地での食料供給が円滑に行えるよう、食料産業局長他 1 名を派遣。

(経済産業省)

- 約 5 万 6100 戸が停電中。
- 引き続き、約 10 万 5000 戸でガスの供給停止中。
- 油所・油槽所で十分なガソリン在庫を確保。タンクローリーの増強等の対応を進めている。
- コンビニ・スーパーは、開店店舗数が増加。コンビニでは、他県分の融通等により、本日中に熊本県内で 70 万食の供給を達成する予定。
- 熊本県からの要請を受け、トイレトペーパー 2 万個、T シャツ 1000 枚などを配送。
- 中小企業。明日以降、大分県でも相談窓口を設置。本日時点で熊本県では 20 件の相談。

(国土交通大臣)

- 大分道、速見 IC～日出 JCT、日田 IC から大分 IC で通行止め。
- 応急危険度判定について、熊本県では本日再開。大分県では明日以降対応。
- 公営住宅等の空き住戸数。熊本県内 232 戸。大分県内 209 戸。熊本県・大分県以外の九州各県合計で 1774 戸。
- 応急仮設住宅については、プレハブ建築協会が、ストック分として 2900 戸。
- プッシュ型支援が的確に被災地の手元に届くよう大手物流事業者(日通、ヤマト)の支援を得ることについて調整中。
- 新幹線の脱線車両による休止からの復旧、早ければ 18 日に着手。
- 支援拠点として、八代港、三角港、大分港を利用。

(環境大臣)

- 熊本県庁に支援チームを派遣し、現地の情報収集、技術支援を実施中。
- 市町村の生活ゴミ・し尿処理を支援するため、業界団体に支援を要請。
- 一部避難所で仮設トイレの使用方法がわからないという話があり、衛生状況の悪化を招かないよう、使用方法を周知していく。
- 今後、災害廃棄物の処理を円滑に行うため、関係自治体と緊密に連携し準備を進めている。

(防災担当大臣)

- 各省庁の協力を得て、プッシュ型、プル型の物資支援を実施。プッシュ型については、福岡市の青果市場跡地を提供いただいたので、全部で 5 か所から熊本に送り、仕分けして市町村へ輸送という流れで進めたい。引き続き支援をよろしくお願いいたします。

(文部科学大臣)

- 地震の発生メカニズムについて評価を行った。布田川断層帯の活動によるものと評価。

- 学校施設の被害状況。構造体への被害はほとんど見られない。一部で外壁のひび割れ等がみられる。
- 4月19日学力テストについては、熊本県は実施しない。大分、宮崎、福岡においては、問題用紙が配布できない市町村は実施しない。
- 教職員の加配について熊本県教育委員会と相談中。
- 学校再開は、学校が避難所となっているため、状況に応じて判断。

(内閣総理大臣)

- 食料等について、避難所で不足している等の報道もある。避難所までちゃんと行っているか、それとも、報道との時間との差があるのか等、色々と問題もあるかもしれないが、明日の朝以降、そういう状況にならないように対応いただきたい。
- 水道が断水しており、水が不足している。水道の復旧に全力を注いでほしい。
- 避難者支援チームもある。避難所で不満が発生する前に、先手で対応を。
- SNSで情報が溢れている。拾って分析しながら対応を。

(防災担当大臣)

- 総理から指示があったように、物資は動き出しているが、それぞれの避難所のニーズを満たしていると言いはないのが現状かと思う。ニーズをきめ細かく広い対応を。食料、水に続き、下着、薬といった新たなニーズが生じてくる時間帯。自衛隊に対応いただいているが入浴の問題も。食料、水に次ぐ問題もそろそろ考えていかないといけない。コンビニ70万食、今晚中に到達する見込みであるが、明日以降もこの状況は続くので、経済産業省、農林水産省、いろいろ支援をお願いします。
- 避難所でのプライバシーの仕切り、あるいは避難所で和式トイレしかなく高齢者が使えないという細かなニーズが出てきている。内閣府で避難所運営のマニュアル等をネットで公開させていただいたので、各省庁も利用いただき、ニーズに対応いただきたい。
- 各省庁でも復旧関係の支援について、なるべく広く広報してもらいたい。現地の人に情報が行くことにより、いつまでにこういうことが出来そうだという希望をもってもらいたくことが重要。前広に情報発信をお願いしたい。
- 避難所の次は仮設住宅等。国土交通省には既に対応を始めていただいているが、次のフェーズもしっかり考えていきたい。新たなチームも立ち上がったので、各省庁切れ目なく、垣根なく支援よろしくお願ひしたい。

以上